

分担研究報告書

パーキンソン病における歩行障害の客観的評価

- 携帯歩行計を用いたドネペジル内服の評価を中心として -

研究分担者：大熊 泰之¹⁾

研究協力者：野田 和幸¹⁾、飯嶋 睦²⁾、織茂智之³⁾

1) 順天堂大学医学部附属静岡病院 脳神経内科

2) 東京女子医科大学 神経内科

3) 関東中央病院 神経内科

研究要旨

パーキンソン病の歩行障害の客観的な評価は重要である。我々は携帯歩行計を用いて歩行のさまざまな側面を評価している。今回は外来通院中のパーキンソン病患者に携帯歩行計（3軸加速度計）を装着し、自宅環境（日常生活）における長時間記録を試みた。歩行率、歩行加速度、運動量、転倒など各種パラメーターの計測を行い、ドネペジルなどの薬効評価に堪えうることが確認された。

A：研究目的

パーキンソン病において歩行障害・転倒は患者のQOLを著しく低下させる。本研究の目的は、1) 歩行障害・転倒の客観的評価方法の確立と、2) 薬剤投与前後における歩行障害の客観的評価である。

B：研究方法

本研究は当施設の倫理審査委員会の承認を得て、患者からインフォオームドコンセントを得て実施した。外来通院中のパーキンソン病患者に携帯歩行計（3軸加速度計）を装着し、病院内歩行および日常生活中における歩行時の各種パラメーターをオフラインで計測した。6例において薬剤投与前後での記録を行った。

C：研究結果

同意を得たパーキンソン病患者において、携帯歩行計を用いた24時間から40時間の長時間連続加速度記録が得られた。歩行率、歩行加速度、運動量、転倒などの分析が可能であった。日内変動を有する患者では、歩行率や歩行加速度の変化が認められた。

DASH-PDに参加した6例で、ドネペジル/プラセボ投薬前後の記録が可能であった（結果は解析中）。

D：考察

携帯歩行計（3軸加速度計）による歩行障害の長時間記録が可能であることが明らかにされ、薬物治療の客観的評価に有用である可能性が示唆された。今後、ドネペジルなどの

分担研究報告書

投薬前後の記録解析を行う。

E：結論

3軸加速度計によるパーキンソン病の歩行分析は有用であり、薬効評価に使用できる。

F：健康危険情報

問題無し

G：研究発表

（発表雑誌名、巻号、頁、発行年なども記入）

1：論文発表

なし

2：学会発表

なし

H：知的所有権の取得状況（予定を含む）

1：特許取得

なし

2：実用新案登録

なし

3：その他

なし